



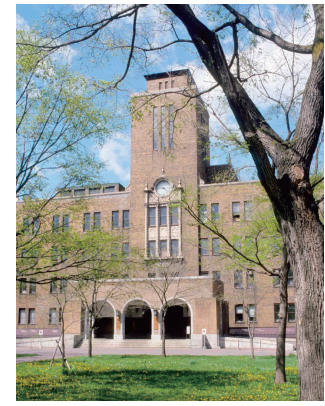
Girls, Be Ambitious and Cheered!



国立大学法人 北海道大学

「輝け、女性研究者！活かす・育てる・支える
プラン・in 北大」

学生数；学部 11,961 名，大学院 6,303 名
教職員数；総長・理事・幹事 10 名，教員 2,082 名，
事務職員 839 名，技術職員 1,027 名
沿革等；本大学の起源は日本最初の近代大学として
1876 年に設立された札幌農学校に遡ります。「フロン
ティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の
重視」を教育研究の基本理念に掲げています。



女性研究者支援室(FResHU)の活動の概要

平成 18 年度文部科学省科学技術振興調整費事業に採択され、事業推進拠点として開設された女性研究者支援室が中心となって北大における女性研究者ならびに研究者を目指す女性たちが、学生、学術研究員、教員などの立場に関わらずその能力を発揮する機会、能力や業績が正当に評価される機会を与え、女性が一人で悩むことなく、出産・育児・介護等の負荷がかかっても、必要な支援を受けながら男性と同様に自分の夢と可能性にチャレンジできるように、さまざまな支援活動の立案・推進・展開に取り組んでいます。女性研究者が活躍しやすい環境整備と、現状で数の少ない女性研究者を増員するための具体的な取組みの推進により、北大全研究者の中の女性研究者比率を 2020 年までに 20%にする(“20% by 2020: Triple Twenties 計画”)よう努めています。

北海道大学が女子学生や女性研究者にとって魅力的な活躍の場となりますように！

北大には、文科系では文学部・法学部・経済学部・教育学部といった分野が、理工系では理学、薬学、工学、情報科学、農学、医学、歯学、獣医学、水産学、環境科学といった分野が存在し、非常に幅広い学問分野において研究活動が活発に行われています。かつては男性教員が多くを占めていた北大ですが、女性教員や研究者が徐々に増加してきており、それぞれの分野で個性を生かしつつ活躍をしています。

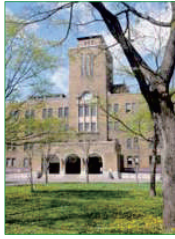
北大では、国際共同研究を通じ地球規模での環境への理解に貢献しています。そして、開拓精神を引継ぎながら、資源の循環や人と自然との調和を目指した研究を行っています。生命科学、情報科学など最新の科学技術にもチャレンジし、産学の連携も推進しています。時流に流されず真理を探究するのにも最適な環境です。札幌市中心近くに位置し、開放的な北大キャンパスには内外から集う多くの一般市民の人々の憩いの場でもあります。理学部構内にある総合博物館は一般の人々に開放されており、科学を身近に提供しています。

北大出身の代表的な女性研究者としては、「核酸の合成と機能に関する研究」で日本学士院賞を受賞し、北海道分子生物学研究会の初代会長であった大塚榮子氏がいます。女性研究者のパイオニアであると共に、長年にわたり北大の科学をリードしてきました。大塚榮子氏に因んで、研究者を目指す大学院女子学生を対象とした「北海道大学 大塚奨励金制度」を平成 17 年度から設け、意欲的に研究に取り組む女子学生を応援しています。女性研究者支援室は、北大が女子学生や女性研究者にとって魅力的な活躍の場となるよう、今後も様々な支援策を推進します。



北海道大学 女性研究者支援室
Support Office for Female Researchers
in Hokkaido University

総括責任者名 佐伯浩
実施責任者名 有賀早苗
推進室等の名称・連絡先
女性研究者支援室(FResHU)
住所；札幌市北区北 8 条西 5 丁目
TEL；011-706-3625
e-mail；freshu@jimuhokudai.ac.jp
URL；http://freshu.ist.hokudai.ac.jp



「輝け、女性研究者！活かす・育てる・支えるプラン・in 北大」

平成18年度文部科学省
科学技術振興調整費
(女性研究者支援モデル
育成) 委託事業



北海道大学的女子学生をモデルに
「理科するりかちゃんストラップ」
作りました！

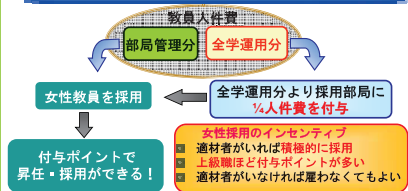
女性研究者活躍のための環境整備

- 女性研究者ネットワークの構築
- メンタリングシステムの構築
- 女性研究者が抱える問題やワークライフバランス等への意識改革プロモーション
- 産休・育休などの研究教育代替・補助のための人材需給システムの構築
- 保育園、育児休業制度等の改善・利活用の促進
- 北大赴任者の研究者パートナーのキャリア継続支援(若手研究者カップルの同居支援)

- ポジティブアクション北大方式による女性教員起用の採用・昇任促進
- 女子大学院生・女子学生の博士課程進学および研究者チャレンジ支援
- 女子大学院生による女子中高生の理系進路選択の展開(道内各地)
- 離職中の潜在的な女性研究者の復帰支援

ポジティブアクション北大方式

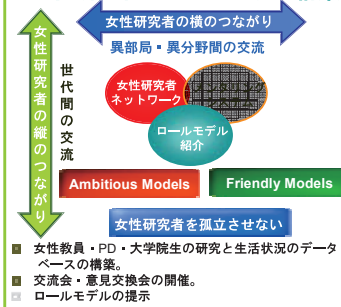
目標 20% by 2020 (Triple Twenties計画)
北大全研究者の中の女性研究者比率を2020年までに20%に！



- 「ポジティブアクション北大方式」導入によって・・・
- ✓ 正規教員の女性採用率が>25%になりました。
 - ✓ 総長裁量の戦略的重点配分人件費を使って女性採用を「大学の活性化戦略」として推進。
 - ✓ 助教7人分の人件費により12部局で女性教員が25人増加。

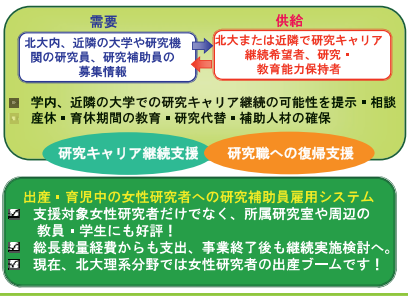
女性研究者増員のための具体的取り組み

女性研究者ネットワークの構築



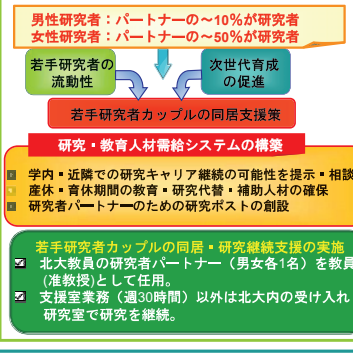
- 女性教員・PD・大学院生の研究と生活状況のデータベースの構築。
- 交流会・意見交換会の開催。
- ロールモデルの提示

研究教育人材需給システムの構築



- 学内・近隣の大学での研究キャリア継続の可能性を提示・相談
 - 産休・育児期間中の教育・研究代替・補助人材の確保
 - 研究キャリア継続支援
 - 研究職への復帰支援
- 産出・育児中の女性研究者への研究補助員雇用システム
 支援対象女性研究者だけでなく、所属研究室や周辺の教員・学生にも好評！
 総長裁量経費からも支出、事業終了後も継続実施検討へ。
 現在、北大理系分野では女性研究者の産出ブームです！

研究者パートナー支援



- 研究・教育人材需給システムの構築
- 学内・近隣の大学での研究キャリア継続の可能性を提示・相談
 - 産休・育児期間中の教育・研究代替・補助人材の確保
 - 研究者パートナーのための研究ポストの創設
- 若手研究者カップルの同居・研究継続支援の実施
 北大教員の研究者パートナー(男女各1名)を教員(准教授)として任用。
 支援室業務(週30時間)以外は北大内の受け入れ研究室で研究を継続。

北大女子学生を中心とした「理系応援キャラバン隊」による出前実験イベント



第一回支援推進シンポジウム「ワークライフバランスとプロ意識」を開催しました。



今年札幌郊外(北広島市)、帯広、函館の各地で開催し、テレビのニュースや新聞でも大きく取り上げられました。



FResHU 3年目は
2年間の活動で軌道に乗った項目は継続し、それに加えて・・・

- 北大サミットウィーク期間中に国際シンポジウム「Sustainable Should Be Female Scientists' Career! Environments for Gender Equality and Work Life Balance in Science」を開催予定
- 女性研究者ネットワーク、交流システムの構築
- 研究者パートナーのキャリア継続支援制度の推進
- 大学院生・博士研究員を対象としたキャリア開発教材の作成、活用促進
- 振興調整費事業終了後の支援体制について検討



女子にはロールモデルを 男子には意識改革を